

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編



文化施設

8 文化施設

その1 施設の概要

文化施設は与謝野町の歴史や文化を体験する目的で整備された施設です。施設概要では個々の施設について説明します。

【文化施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
古墳公園	明石2341番地	46,863.0㎡	-	H4	指定管理
物産展示館（古墳）			206.8㎡	H4	指定管理
はにわ資料館（古墳）			464.2㎡	H4	指定管理
加悦椿文化資料館	滝1986番地	1,517.3㎡	278.1㎡	H8	指定管理
滝のツバキ公園	滝地内	1,909.0㎡	-	H1	直営
旧尾藤家住宅	加悦1085番地 1086番地 1086番地2	1,239.7㎡	1,801.4㎡	1863年	指定管理
旧加悦町役場庁舎	加悦1060番地	1,764.0㎡	512.1㎡	S4	委託
旧加悦鉄道加悦駅舎	加悦433番地8	911.2㎡	233.7㎡	大正15年	指定管理
江山文庫	金屋1682番地	2,132.0㎡	575.0㎡	H4	直営
三河内郷土資料室	三河内1570番地	420.0㎡	369.1㎡	H12	直営
農村文化保存伝習センター	明石2357番地	3,218.0㎡	382.8㎡	S56	直営
松風庵	滝728番地1	-	24.4㎡	S62	直営
		合計	59,974.2㎡	4,847.6㎡	

【施設位置図】



■ 古墳公園

郷土の歴史的文化資料の保存及び活用を図り、町民の地域文化の理解及び向上に資するため、平成 4 年に古墳公園は整備されました。

日本海地域屈指の大型古墳の国史跡「蛭子山（えびすやま）古墳」と国史跡「作山（つくりやま）古墳」を復元整備した歴史公園です。

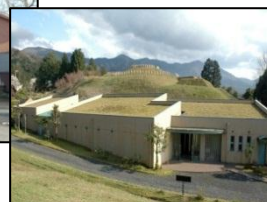
現在、丹後王国古墳公園保存会合同会社が指定管理者として管理・運営しています。



古墳全景



物産展示館



はにわ資料館

■ 加悦椿文化資料館/滝のツバキ公園

椿文化資料館は、現在、与謝野町の木となっている椿の文化的な資料等の収集保存及び活用により、地域文化の向上に資するため、平成 8 年に旧加悦町で整備されました。有限会社明人夢村が指定管理者として管理・運営しています。

滝の千年ツバキ公園は、日本最長寿級の大椿である京都府指定天然記念物「滝のツバキ」周辺の環境整備により作られた自然公園施設です。「滝のツバキ」は、奥深い谷のさらに奥で、樹高 9.7 メートル、枝張り径 10.0 メートル、幹周 3.26 メートルもある大椿で、公園エントランス広場手前の駐車場からは徒歩 300 メートルのところに位置しています。



加悦椿文化資料館



滝のツバキ

■ 旧尾藤家住宅

旧尾藤家住宅は近畿北部の大型農家を基本として、それに丹後の生糸ちりめん商家の要素を加え、さらに昭和初期の洋風建築が付加されているなど、和と洋が融合した建築と評価され、平成 14 年 3 月 26 日、京都府有形文化財に指定されました。同年 11 月に尾藤家より加悦町（当時）へ建物が寄付され、加悦町が平成 15 年度に保存修復工事を行い一般に公開されています。現在は、ちりめん街道を守り育てる会が指定管理者として管理・運営しています。



■ 旧加悦町役場庁舎

加悦町役場として昭和 3 年に起工、昭和 4 年に竣工され、平成 13 年度に新庁舎が建設されるまでの 70 年以上の間役目を果たしました。現在は、与謝野町観光協会が設置されており、管理委託されています。今後はちりめん街道活性化の取組のなかで、建物の利活用に向けた整備（耐震補強、建築基準法、消防法などを満たすような改修）も検討されています。



■ 旧加悦鉄道加悦駅舎

旧加悦鉄道加悦駅舎は、大正 15 年に開業した小さな私鉄「加悦鉄道」を紹介する鉄道資料室となっています。駅舎自体も大正 15 年に建てられた洋風の木造 2 階建てで、新しい町を象徴する建物として親しまれてきました。平成 8 年に加悦町有形文化財に指定され、平成 11 年から 13 年に加悦町役場（現加悦庁舎）建設のために現在の場所に移設されました。NPO 法人加悦鉄道保存会が指定管理者として、管理・運営しています。



■ 江山文庫

江山文庫は、寄贈を受けた数々の短歌・俳句資料を保存活用し、与謝蕪村、与謝野礼蔵、鉄幹・晶子ら当町ゆかりの俳人・歌人を顕彰しつつ、地域文化の振興を図ることを目的として平成 6 年 10 月に開館しました。



地域の教育文化の発展に寄与する施設として、短歌・俳句を中心とした展示活動をはじめ、与謝野町俳句大会や各種講座の開催など、さまざまな文化事業に取り組み、多くの方に親しまれる資料館です。

■ 三河内郷土資料室

郷土に残る民俗資料の保存と活用を図り、町民の教育及び文化の向上に資するため、歴史や文化にふれあう場を提供することを目的とし、郷土資料室を設置しています。



■ 農村文化保存伝習センター

与謝野町の農村文化の保存及び伝習並びに地域住民の研修、会合等の用に供するため、農村文化保存伝習センターは設置されています。現在、展示室は「はにわ資料館」にあり、大量の文化財の収蔵庫・文化財整理室として活用しています。また、学童保育にも利用しています。



■ 松風庵（茶室）

松風庵(茶室)は、日本の伝統文化である茶道を通し、町民相互の交流を深め、文化及び教養の向上等、福祉の増進を推進するとともに、伝統文化の継承に資するために昭和 62 年に設置されました。大江山運動公園内にあります。



その2 施設の物理的状況

公園や文化財として位置づけられている建物に関しては、老朽化率を算出していません。その他の施設に関しては松風庵の老朽化が目立っていますが耐用年数到達の施設はありません。

① 老朽化の状況

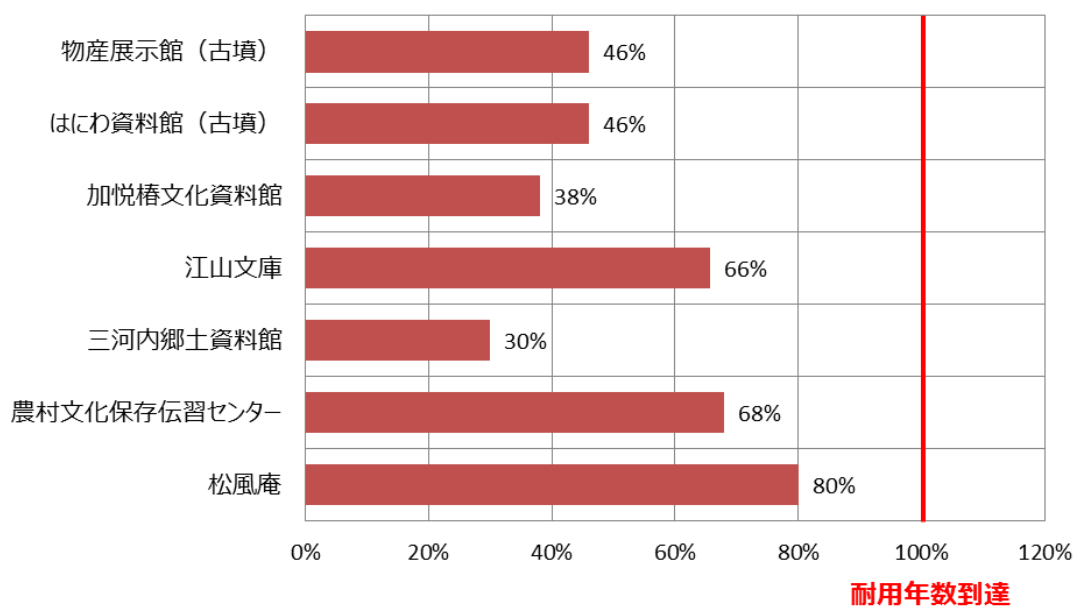
【文化施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建設年	耐用年数到達	老朽化率	
古墳公園	-	H4	-	-	-
物産展示館（古墳）	鉄筋コンクリート造1階建	H4	H54	46%	有
はにわ資料館（古墳）	鉄筋コンクリート造1階建	H4	H54	46%	有
加悦椿文化資料館	鉄筋コンクリート造1階建	H8	H58	38%	有
滝のツバキ公園	-	H1	-	-	-
旧尾藤家住宅	木造2階建	文久3年 (1863年)	-	-	無
旧加悦町役場庁舎	木造2階建	S4	-	-	無
旧加悦鉄道加悦駅舎	木造2階建	大正15年	-	-	有
江山文庫	木造1階建	H4	H39	66%	有
三河内郷土資料館	鉄筋コンクリート2階建	H12	H62	30%	有
農村文化保存伝習センター	鉄筋コンクリート1階建	S56	H43	68%	有
松風庵	木造1階建	S62	H34	80%	有

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超える場合は耐用年数超過です。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造は50年、鉄骨造は40年、木造は35年を想定しています。

※古墳公園、滝のツバキ公園などの公園や、旧尾藤家住宅、旧加悦町役場、旧加悦鉄道加悦駅舎は文化財に位置付けられる建物ですので老朽化率はお示していません。



② バリアフリー化状況

文化施設のバリアフリー化状況は、以下のとおりです。整備された年度によってややばらつきがありますが、人が多く訪れる施設ですので、一定の整備はされています。

【文化施設バリアフリー化状況】

学校名	バリアフリー設備						
	多目的トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	エレベーター	階段昇降機
古墳公園	○	○	○	○	○	-	-
物産展示館（古墳）	○	○	○	○	○	-	-
はにわ資料館（古墳）	○	○	○	○	○	-	-
加悦椿文化資料館	-	不要	-	○	○	-	-
滝のツバキ公園	-	-	-	○	-	-	-
旧尾藤家住宅	-	-	-	○	-	-	-
旧加悦町役場庁舎	○	○	-	○	○	-	-
旧加悦鉄道加悦駅舎	○	○	-	○	○	-	-
江山文庫	○	○	○	○	○	-	-
三河内郷土資料館	-	-	-	○	-	-	-
農村文化保存伝習センター	-	○	-	-	-	-	-
松風庵	-	-	-	-	-	-	-

③ 防災状況

文化施設は郊外にあるものもあり、滝のツバキ公園などは警戒区域内にあります。

【文化施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
古墳公園	-	-	-	-	-
物産展示館（古墳）	-	-	-	-	-
はにわ資料館（古墳）	-	-	-	-	-
加悦椿文化資料館	-	-	-	-	特別警戒区域内
滝のツバキ公園	-	-	-	-	特別警戒区域内
旧尾藤家住宅	-	-	-	-	-
旧加悦町役場庁舎	-	-	-	-	-
旧加悦鉄道加悦駅舎	-	-	0.5m～3.0m	-	-
江山文庫	-	-	-	警戒区域内	特別警戒区域内
三河内郷土資料館	-	-	-	-	-
農村文化保存伝習センター	-	-	-	-	-
松風庵	-	-	-	-	-

その3 施設の利用状況

文化施設の利用人数は以下の表のとおりです。古墳公園や旧尾藤家住宅は年間 3,000 人を超える利用人数があります。一方で季節的なこともあります。加悦椿文化資料館はやや低調に見えます。施設によって人数把握の方法が異なっていたり、他団体の同系施設と比較が困難なことから、利用数での評価は難しいです。

【文化施設利用人数推移表】

施設名	利用人数				
	H21	H22	H23	H24	H25
古墳公園	3,576人	3,041人	2,775人	3,340人	3,048人
物産展示館（古墳）	5,265人	4,537人	4,379人	4,818人	5,387人
はにわ資料館（古墳）	3,576人	3,041人	2,775人	3,340人	3,048人
加悦椿文化資料館	912人	815人	577人	763人	830人
旧尾藤家住宅	3,689人	3,085人	4,146人	3,876人	3,566人
旧加悦町役場庁舎	—	1,094人	4,059人	4,490人	4,228人
旧加悦鉄道加悦駅舎	2,039人	1,525人	1,655人	1,605人	1,564人
江山文庫	1,806人	1,540人	1,904人	1,956人	1,943人
三河内郷土資料館	948人	826人	1,226人	959人	659人
農村文化保存伝習センター	学童保育で活用				

※農村文化保存伝習センターは、桑飼小学校区の学童保育で活用されています。

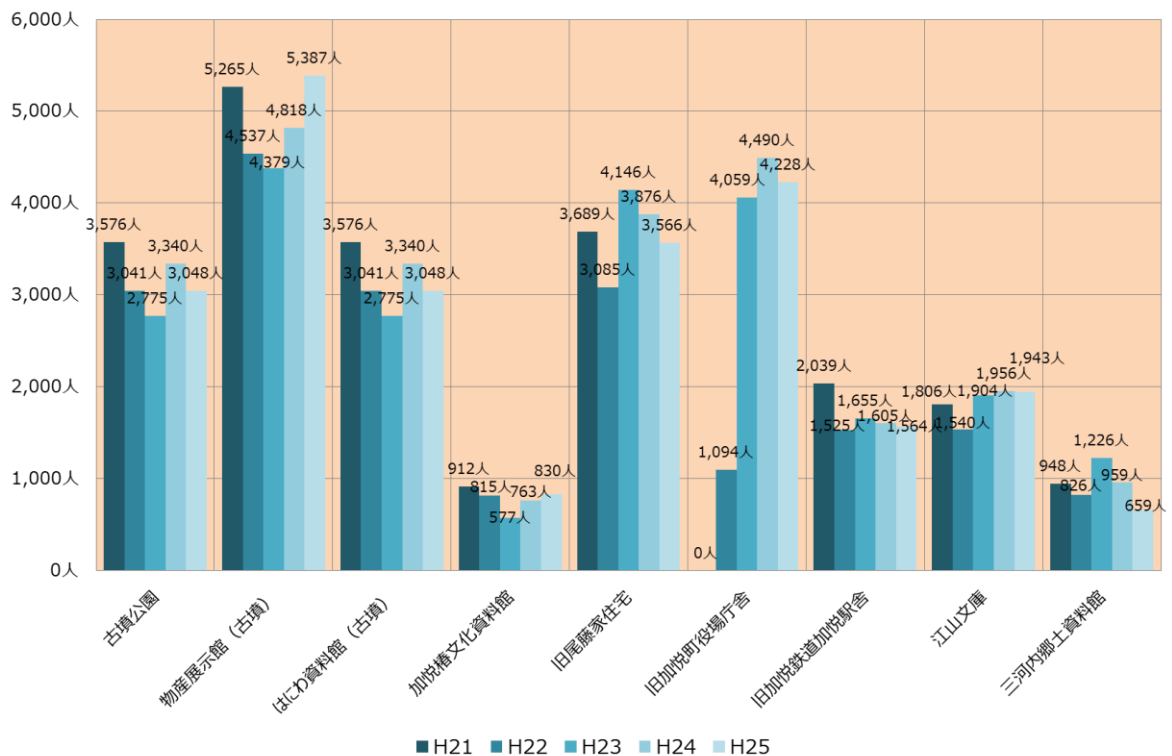
※滝のツバキ公園は利用人数の把握はしていません。

※表記はないですが、松風庵は利用実績は年間で1～2件となっています。

※旧加悦町役場庁舎は、観光協会設置以降の人数です。

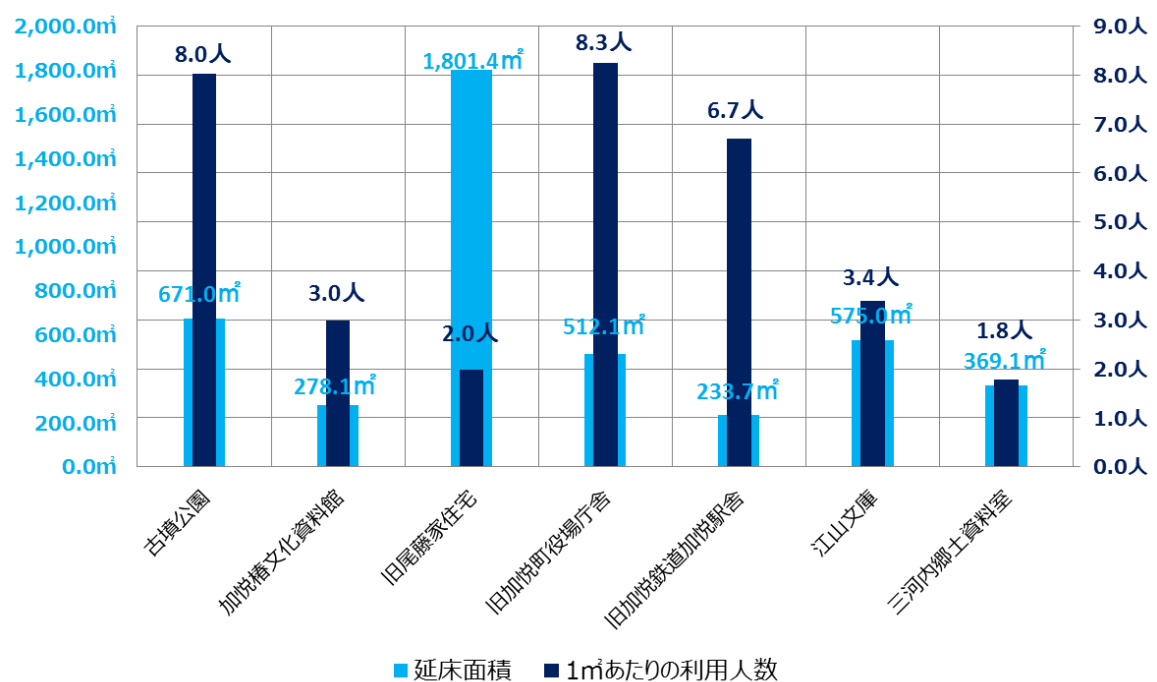
※旧加悦鉄道加悦駅舎は、平成22年の10月より加悦鉄道保存会の管理となった以降の人数です。

【文化施設利用人数推移グラフ】



建物規模と利用人数を比較してみると以下のグラフのようになります。体験レクリエーション施設とは違い、観光等を目的としているわけではないので、延床面積 1 m²あたりの利用人数はそれほど多くはありません。古墳公園の 1 m²あたりの利用人数 8.0 人は、物産展示館とはにわ資料館の延床面積合計と物産展示館の利用人数で算出していますので、他施設と比較するには妥当な数字ではないと考えます。この比較はあくまで参考数値にとどまるものです。

【文化施設 1 m²あたりの利用人数グラフ】



その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

【文化施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

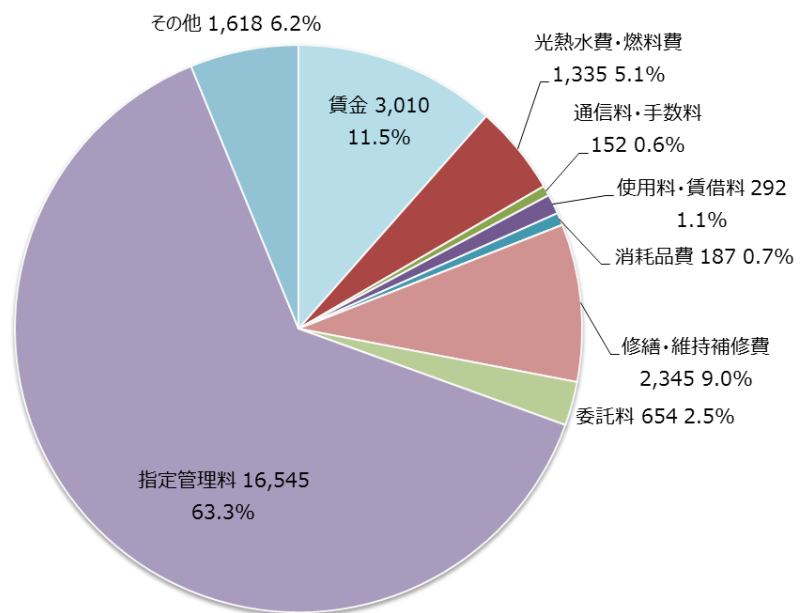
項目	古墳公園	加悦椿文化資料館	滝のツバキ公園	旧尾藤家住宅
賃金	76	0	0	0
光熱水費・燃料費	0	0	0	0
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	50	213
消耗品費	0	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	1,076	0	254	0
委託料	0	0	91	0
指定管理料	8,500	2,456	0	3,945
その他	86	32	17	171
合計	9,738	2,488	412	4,329
項目	旧加悦町役場庁舎	旧加悦鉄道加悦駅舎	江山文庫	三河内郷土資料室
賃金	0	0	2,219	715
光熱水費・燃料費	334	0	1,001	0
通信料・手数料	0	0	119	33
使用料・賃借料	0	0	29	0
消耗品費	0	0	174	5
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	18	997	0	0
委託料	124	11	385	0
指定管理料	0	1,644	0	0
その他	82	51	1,146	15
合計	558	2,703	5,073	768
項目	農村文化保存伝習センター	松風庵	合計	
賃金	0	0	3,010	
光熱水費・燃料費	0	0	1,335	
通信料・手数料	0	0	152	
使用料・賃借料	0	0	292	
消耗品費	8	0	187	
備品購入費	0	0	0	
賄・医薬材料費	0	0	0	
修繕・維持補修費	0	0	2,345	
委託料	11	32	654	
指定管理料	0	0	16,545	
その他	18	0	1,618	
合計	37	32	26,138	

※金額は平成25年度の実績額です。

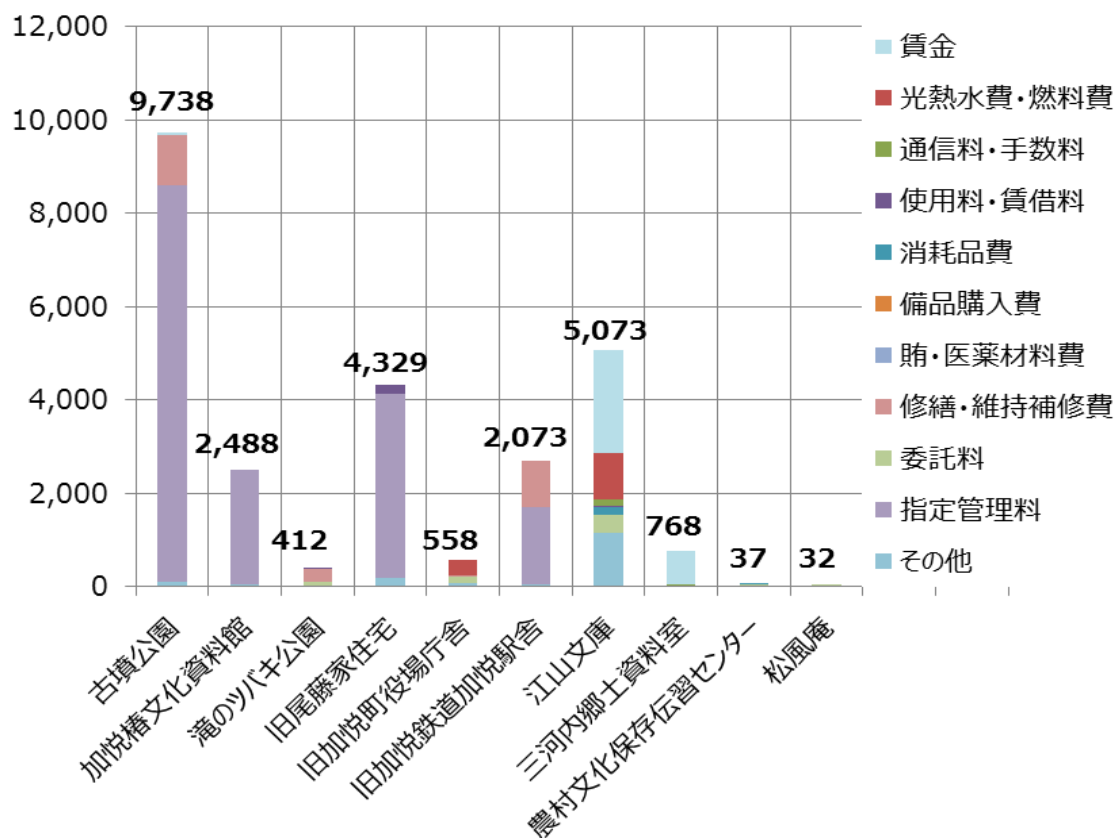
※古墳公園は平成25年度から指定管理に移行しています。

※物産展示館、はにわ資料館のコストは古墳公園に含まれています。

【文化施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



【文化施設管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



各施設のコスト状況を比較すると、古墳公園のコストが多くなっています。指定管理施設の収支は以下のとおりとなっています。

【文化施設指定管理者の収入・収支一覧】

(単位：千円)

【参考：利用料金等ある施設】

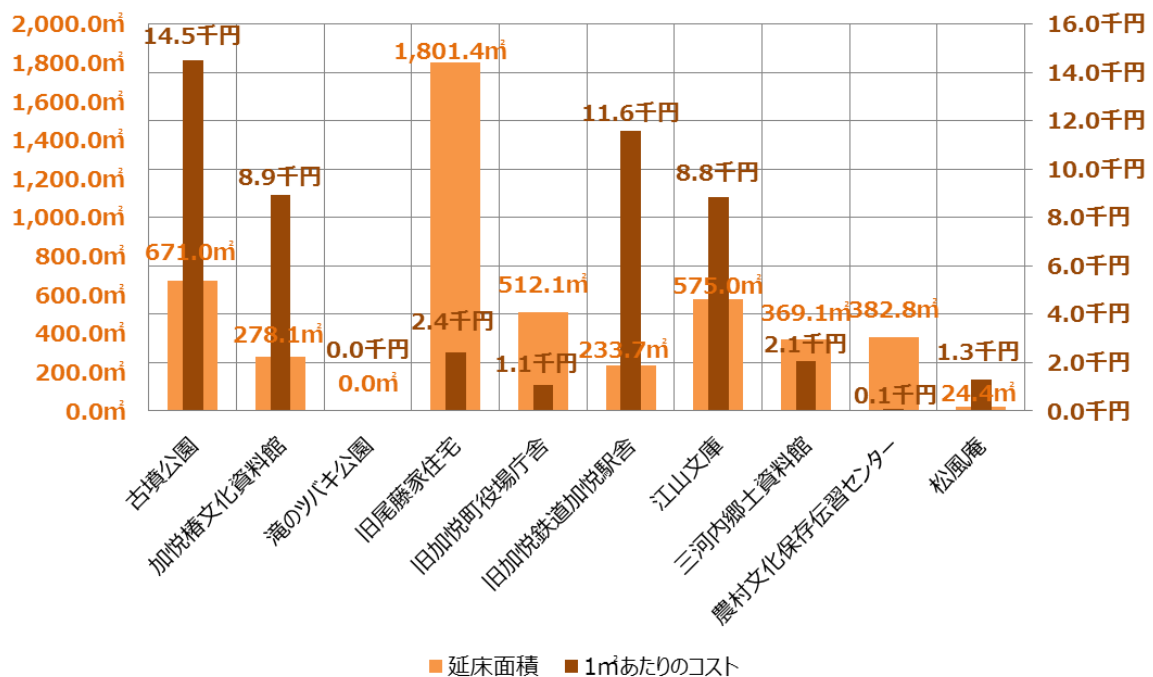
科目	古墳公園	椿文化資料館	旧尾藤家住宅	旧加悦鉄道加悦駅舎
利用料収入	428	114	574	0
販売等収入	187	11	144	0
その他	331	0	1	0
指定管理料	8,500	2,456	3,945	1,644
収入合計	9,446	2,581	4,664	1,644
支出合計	9,458	2,686	4,625	1,673
差引	-12	-105	39	-29
指定管理者	丹後王国古墳公園保存会合同会社	有限会社 明人夢村	ちりめん街道を守り育てる会	特定非営利活動法人加悦鉄道保存会
収入中の指定管理料割合	90.0%	95.2%	84.6%	100.0%

江山文庫	三河内文化資料室
174	22
0	0
0	0
0	0
174	22

※古墳公園には物産展示館、はにわ資料館も含まれています。

参考に、建物の規模とコストを比較すると以下の表のとおりとなります。1㎡あたりの管理・運営コストを算出しました。加悦椿文化資料館や旧加悦鉄道加悦駅舎では建物規模に対してコストがかかっているように見えます。古墳公園は物産展示館とはにわ資料館の延床面積の合計で比較していますので、他施設と比べ数値の妥当性が低いと考えます。

【文化施設 1㎡あたりの管理・運営コストグラフ】



② 整備等のコスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年到達時に建替え

☆耐用年数経過している建物は5年以内に建替え。

ただし、文化財に位置付けられる施設（旧尾藤家住宅、旧加悦町役場庁舎、旧加悦鉄道加悦駅舎）は大規模改修。すでに改修が施されている旧尾藤家住宅と旧加悦鉄道加悦駅舎は30年後に実施すると想定し、大きな改修が実施されていない旧加悦町役場庁舎は5年以内に改修。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）。

【コストの考え方】

○旧尾藤家、旧加悦町役場庁舎、旧加悦駅加悦駅舎

大規模改修・・・25万円/㎡

※大規模改修コストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました（社会教育系施設）。

○その他の施設：建設・・・40万円/㎡（解体費含む：社会教育系施設） 解体・・・3万円/㎡

※建設コストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

これらの単価に現在の容量、敷地面積、延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

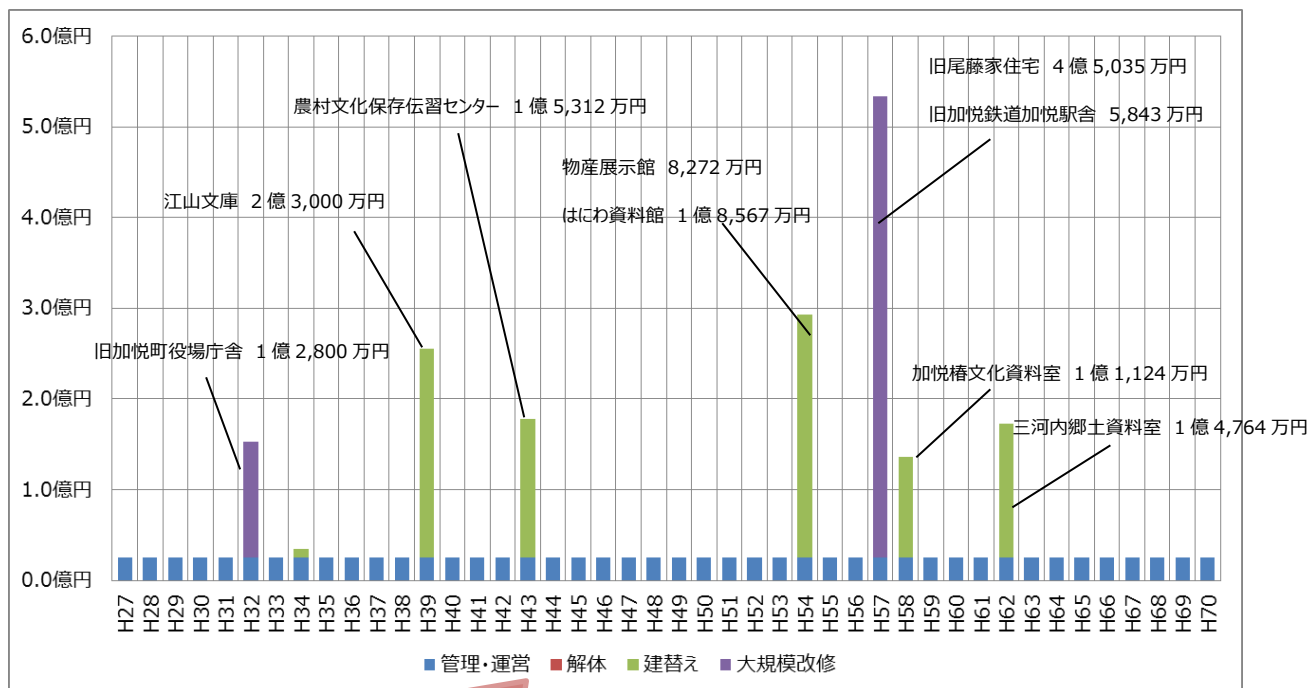
【文化施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建て替え （網掛けは大規模改修）		解体	
				実施年度	コスト （解体費含む）	実施年度	コスト
古墳公園	H4	-	411,656	-	-	参考	-
物産展示館（古墳）	H4	50年	184,650	H54	82,720	参考	6,204
はにわ資料館（古墳）	H4	50年	176,003	H54	185,668	参考	13,925
加悦椿文化資料館	H8	50年	185,274	H58	111,240	参考	8,343
滝のツバキ公園	H1	-	7,486	-	-	参考	-
旧尾藤家住宅	文久3年 (1863年)	-	-	H57	450,350	参考	-
旧加悦町役場	S4	-	22	H32	128,025	参考	-
旧加悦鉄道加悦駅舎	大正15年	-	-	H57	58,425	参考	-
江山文庫	H4	35年	179,903	H39	230,000	参考	17,250
三河内郷土資料室	H12	50年	-	H62	147,640	参考	11,073
農村文化保存伝習センター	S56	50年	60,142	H43	153,120	参考	11,484
松風庵	S62	35年	9,800	H34	9,760	参考	732
※網掛け部分は改修工事を行う場合のコストです。				合計	1,556,948	合計	69,011

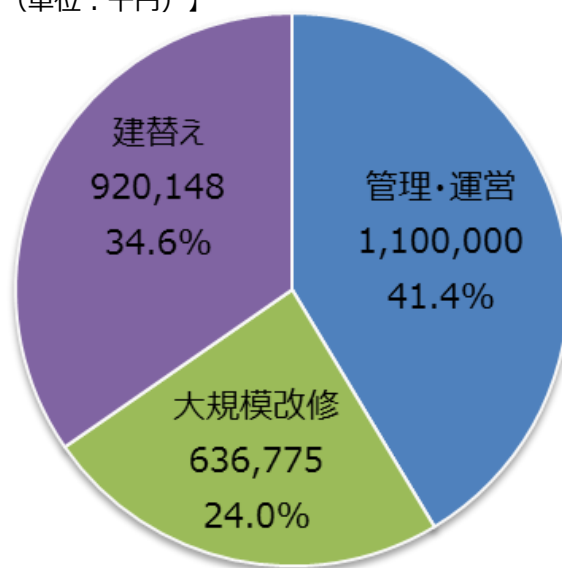
管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【文化施設将来コスト推移表】



コスト総額約 26.6 億円（整備 15.6 億円、解体 0 億円、管理・運営 11 億円）

【文化施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その５ まとめ

１ 現状・課題

●建物状況

文化財として位置づけられる施設もあり、古い建物は100年以上の歴史がありますが、大規模改修も行い、維持できている状況です。そんな中でも旧加悦町役場は平成12年度まで役場機能を有しており、あまり手を加えられていない状況です。現在の旧加悦町役場庁舎は旧尾藤家住宅と同様に国選定の重要伝統的建造物群保存地区「ちりめん街道」のシンボルでもあり、町外から来られる観光客が安心して見学できるような改修を施す必要があります。

●防災状況

滝のツバキ公園は平成16年度の台風23号の時も大きな被害にあっており、防災面ではやや不安があります。

●利用状況

文化施設なので、学校の授業で見学するなどの利用もありますが、古墳公園やちりめん街道の施設（旧尾藤家住宅、旧加悦町役場庁舎）を除いて、一般の利用についてはそれほど多くない印象です。特に滝のツバキ公園を中心とするエリアは季節的なこともあります。利用人数が多くない現状です。平成28年度の椿サミットが一つの契機になると考えられますが、その後の活用について検討する必要があります。

●コスト状況

管理・運営コストについては他のカテゴリーと比べ一施設あたりのコストはそれほど高くない状況です。その中でも古墳公園については他の施設と比べコストが高くなっている印象です。また、指定管理施設は4施設ありますが、その収入状況を見てみると指定管理料の割合が高くなっており、収入増の見込みが少ないことがわかります。

一方、今後の整備費用ですが、トータルで約15.6億円かかります。設置には歴史や経過があり、また、学校や体育館と違い町内唯一の施設である場合が多いですので、全てを残していく必要があるのか、他に活用の道がないのかを検討する必要があります。

●現状のまとめ（今後の展望も含めて）

ほとんどが旧加悦町時代に整備されており、それぞれ歴史や文化的背景を持って設置されています。今後についてはもう一度その設置目的を確認し現状と照らし合わせることによって、より有効な活用方法の検討や、分類分けをし直して施設を複合化したり、移譲、廃止ということも検討する必要があります。